

令和3(2021)年「正覚寺報」12月号

お知らせ

令和三年、コロナは、夏に頂点を極めて以来デルタ株が減少して落ち着きましたが、年末にオミクロン株の増加が懸念されています。皆様お大事になさって下さい。下記はご案内です。

記

除夜会(令和3年大晦日(土)22時半～)

の2 “除夜の鐘” 23時～24時

修正会(しゅしょうえ) 2022年元旦零時

親鸞聖人御正忌お通夜 1月15日(土)20時

令和三年年末から令和四年新年に向けて

令和三年末に新年の福祉施設訪問御法話案内が教務所から届きました。

早速ご返事致しますと、令和四年の新年早々、四日に「犬上の特別養護老人ホームへ訪問されたい」とのご返事です。

訪問先は、全く初めてのご縁ですから、ネットを手掛かりにルートを辿ります。

湖岸道路を一路、彦根に向かいますと、湖岸べりの「八坂」という在所に辿り着きます。住職が親鸞聖人讃仰布教に出るようになって間もなくお訪ねしたお寺が右手です。

八坂地域は、土地が低いと嘗て水害が起り易く、御門徒の皆様が新たな土地を求めてカナダへお渡りになったと言われます。

1940年夏、バルト三国は、リトアニアの日本領事館の領事代理だった杉原千畝(ちうね)が、「日本通過ビザ」を発給したことにより、ナチスの迫害から逃れたユダヤ人達は日本を経由してカナダに渡られました。

後に、カナダに移住された日本人の皆様が、カナダで迫害に逢い、浄土真宗のお法りを広

げることができなくなった時、「それでは、私達の教会をお使いになって下さい」と温かく接して下さったのは、「杉原」のご縁に逢われたユダヤ人の後裔だったのです。土地の名から嘗ての民族の物語が一挙に吹き出します。たった一人でも勇を鼓して人の道を実践された「杉原」の名は今でもカナダのユダヤ人達の末裔から特別な眼差しで見られています。

「開出今町」で左折し、「戸賀町西」で右折すると、「すずらん通り」が長く続きます。

「南彦根」の高架を過ぎて程なく八号線を渡り、「高宮大北」を左折し、「大堀町」で右折すると、「芹川緑地」が左手に広がり、やがて右手に目的の訪問先が姿を表します。

この間、土地の名から嘗てお世話になった先生方、お出遇いした友人達のお姿や名が脳裏に浮かんで消えます。

「本願力回向」の如来様のお慈悲に遇えばこそ、お名号の働きにより「往相回向」でお浄土に逝かれた傍々は、今では「還相回向」の働きで私の胸の中にお宿り下さっています。

「皆様、決して案ずることはないのですよ。これから私達は、如来様の本願のお名号が働いて下さればこそ、嘗てお出遇いした傍々に導かれ、阿弥陀様のお慈悲の温もりの中に迎え採られているのですから。

それでは、両の手を合わせて、ご一緒にお念仏申しませう。

「南無阿弥陀仏」と称えれば、直ちに聞こえて下さる「南無阿弥陀仏」こそは、「私を頼みにするんだよ」と喚び続けていて下さる如来様のお喚び声だったので、合掌。